

北見市における景気動向調査報告書

< 第 I 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 令和元年8月8日

(2) 調査対象期間 平成31年4月～令和元年6月期実績および令和元年7月～9月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種	企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業		30社	20社	66.7%
建設業		30社	22社	73.3%
卸売業		30社	27社	90.0%
小売業		35社	21社	60.0%
サービス業		25社	15社	60.0%
合計		150社	105社	70.0%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

2019年度第I四半期<4月～6月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」18.1%、「悪化企業」42.9%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△24.8となっています。このD・I値を、前年同期（△22.8）と比較してみると2.0ポイントの悪化傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△30.0、建設業D・I値△22.7、卸売業D・I値△18.5、小売業D・I値△28.6、サービス業D・I値△26.7となっており、前年同期調査と比較すると、サービス業が12.2ポイント、建設業が5.9ポイント、卸売業が5.4ポイントの改善傾向が見られましたが、製造業が30.0ポイント、小売業が2.5ポイントの悪化傾向を示しました。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」17.1%「悪化企業」39.0%でD・I値△21.9と、前年同期見通し（△21.9）と同様の結果になり、厳しい状況が続く来期見通しとなっております。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製造業	生産高	前年比で「増加企業」10.0%、「減少企業」40.0%、D・I値△30.0と前年同期に比べ48.2ポイントの大幅な悪化となりました。
	採算	前年比で「好転企業」10.0%、「悪化企業」50.0%、D・I値△40.0と、前年同期に比べ40.0ポイントの大幅な悪化を示しました。
	来期見通し	業況D・I値△25.0、生産高D・I値△20.0、資金繰りD・I値△10.0と、前年同期と比べ全てで悪化傾向を示す結果となりました。
2) 建設業	完成工事高	前年比で「増加企業」22.7%、「減少企業」45.5%、D・I値△22.8と、前年同期と比べ5.8ポイントの好転となりました。
	採算	前年比で「好転企業」13.6%、「悪化企業」45.5%、D・I値△31.9と、前年同期に比べ6.2ポイントの好転となりました。
	来期見通し	業況D・I値△27.3、完成工事高D・I値△31.8、資金繰りD・I値△9.1と前年同期に比べ全て10ポイント以上の好転を示す結果となりました。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」25.9%、「減少企業」37.0%、D・I値△11.1と、前年同期と比べ8.0ポイントの好転となりました。

採算

前期比で「好転企業」22.2%、「悪化企業」37.0%、D・I値△14.8と前年同期に比べ13.8ポイントの好転となりました。

来期見通し

業況D・I値△14.8、売上高D・I値△7.4、資金繰りD・I値0と、前年同期と比べ資金繰りで9.5ポイントの好転となりました。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」19.0%、「減少企業」38.1%、D・I値△19.1と、前年同期に比べ1.7ポイントの悪化となりました。

採算

前年比で「好転企業」19.0%、「悪化企業」47.6%、D・I値△28.6と、前年同期に比べ15.5ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況D・I値△23.8、売上高D・I値△19.1、資金繰りD・I値△9.6と、前年同期と比べ業況・売上高で悪化傾向を示す結果となりました。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」26.7%、「減少企業」46.7%、D・I値△20.0と、前年同期と比べ、18.9ポイントの好転となりました。

採算

前年比で「好転企業」26.7%、「悪化企業」40.0%、D・I値△13.3と、前年同期に比べ31.1ポイントの大幅な好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値△20.0、売上高D・I値△20.0、資金繰りD・I値△26.6と、前年同期に比べ、全てで好転を示す結果となりました。

各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



各年度調査期

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少
卸 売 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 件 費 増
小 売 業	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	人 件 不 足	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少
合 計	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○全業種で見ると、1位～3位までは前回調査と変動は無かったが、4位と5位が入れ替わった。前回、前々回に引き続き、「人材不足」がトップであり、深刻化している。

業種別で見ると、卸売業で前回3位の人材不足がトップとなった。その他の業種ではほとんど変動は見られなかった。

「人材不足」、「諸経費増」、「人件費増」が継続的に深刻な問題になっている。

※その他及び具体的な問題点の記載事項 (※は複数事業者が回答)

(製造) ○人材不足 (金属製品)

(建設) ○下請の職人さんの高齢化、従業員の高齢化 (土木・建設)
○人材不足による工期の遅れ (板金)

(卸売) ○人材不足 (作業服等販売)
○原料高 (肉卸売)

業 況

(太字アンダーラインは複数事業所が回答)

製造業 ⇒ 好転 (農産物加工製造、印刷、一般機械)
悪化 (食肉加工、松製材、建築・木製建具、石材加工、**農業機械**、石灰製品)

建設業 ⇒ 好転 (内線工事)
悪化 (**土木**、塗装、板金)

卸売業 ⇒ 好転（鉄鋼、米穀、作業服販売、肉卸売、塗料、一般玩具）
悪化（業務用食品卸、食品、自動車部品、石油製品、農薬農業資材）

小売業 ⇒ 好転（家電、家具）
悪化（酒類、衣料品、時計・貴金属他、火薬、灯油、生鮮食品、食料品他）

サービス業 ⇒ 好転（IT）
悪化（ホテル、ビルメンテナンス、クリーニング、建物清掃、理容）